

意見公募手続実施結果

- 1 題名 水戸市図書館基本計画（第4次）素案
- 2 案の公表日 令和7年1月15日（意見提出期限：令和7年2月13日）
- 3 市民等からの意見数

計 4人 4件

(1) 郵 送	人	件
(2) F A X	人	件
(3) メ ー ル	4人	4件
(4) 直接提出	人	件

4 提出意見及び提出意見を考慮した結果

意見等の概要	市の考え方（対応）
① 候補地は上大野市民運動場もしくは東水戸駅南口。 ② 将来的に合併して政令指定都市になり、ひたちなか市民と大洗町民の利用促進を目指す。 ③ 基本設計は宇都宮市立南図書館を参考にする。ここは駐車場が広い。 ④ 中央図書館は駐車場が狭隘でバリアフリーにほど遠い。竣工時は常澄及び中央図書館は閉館する。建設資金は篤志家募金クラウドファンディングPFI公募等を検討する。	本市では、人口増加が著しい地域における生涯学習の拠点として、（仮称）南部図書館の整備について検討を進める予定です。新しい図書館の機能や規模、立地等については、有識者会議を設置するなど、幅広い議論の中で、より利活用が図られる図書館の整備検討を進めてまいります。検討に当たっては、いただいた御意見も参考にさせていただきます。 なお、周辺市町村住民が本市の図書館を利用することについては、市町村間で協定を締結することにより、周辺市町村住民が相互に図書館を利用することが可能であり、現在、ひたちなか市及び大洗町を含む9市町村の住民が本市の市立図書館を利用することができます。
水戸駅から徒歩圏に図書館及び子供の遊び施設（日立市のボーネルンド提携の遊び場）のような複合施設があると非常に有益だと考える。 水戸駅北口のマルイ跡のビルの数フロアを活用した図書館を検討してほしい。北口のにぎわい創出機能の一つとして大いに可能性があるのではないか。	本市では、人口増加が著しい地域における生涯学習の拠点として、（仮称）南部図書館の整備について検討を進める予定です。新しい図書館の機能や規模、立地等については、有識者会議を設置するなど、幅広い議論の中で、より利活用が図られる図書館の整備検討を進めてまいります。検討に当たっては、いただいた御意見も参考にさせていただきます。 なお、北口マイムビルについては、ビジネスを中心としたビルとして活用されております。

意見等の概要	市の考え方（対応）
19 ページ「本市におけるバランスのとれた図書館の配置とネットワークを構築していくため、人口増加の著しい地域における生涯学習の拠点として、（仮称）南部図書館の整備について検討を進めます。」について ① 現在、市内には6つの図書館が既に設置されており、これに加えて新たな図書館を設置する必要性について、十分な理由が示されていないと考える。アンケート調査「エ 市立図書館で充実してほしい設備や環境」（69 ページ）においても、「近くに図書館の新設」を含む「その他」の回答は、15 歳未満では母数の 143 人のうち 5.6% の 8 人、15 歳以上では母数 517 人のうち 6.4% の 33 人となっており、仮に全員が図書館の新設を望んでいたとしても、要望として十分な数とはいえない。図書館の新設には、多額の費用がかかる一方で、既存の図書館の活用を十分に検討することについても触れる必要があると考える。 ② 新設の理由が人口の増加であるならば、逆に人口が減少している地域の図書館については廃止や統合を含めた全体的な見直しについても検討することについて言及する必要があると考える。施設の増設のみを進めるのではなく、全市的なバランスを考えた計画となるよう、表現を検討するのがよろしいかと思う。 ③ 施設の配置について言及するのであれば、まずは、現状の 6 図書館が市内のどのエリアをカバーしているのかを明確に示すのがよろしいかと思う。その上で、利用実態を踏まえたサービスの充実や、既存の施設を活用した柔軟な対応策を検討することが重要ではないか。その分析なくしては、無秩序に施設を乱立させることにつながりかねない。 ④ このような時代に、新たな箱モノを建設することは、市の財政にさらなる負担をかけることになる。維持管理費を含めた将来的な負担を十分に精査し、本当に必要な施策であるのかを改めて慎重に判断し、検討していく旨を説明されたほうがよろしいかと思う。この話は非常に大きな話だと考えており、「検討」を方便にさらっと触れて問題ない文章とは思えない。 本当に必要な施設であれば反対はしないし、むしろ大きく取り上げるべき項目だと思	（仮称）南部図書館の整備検討については、市民懇談会や市議会においても図書館新設について御意見をいただいております。 御指摘のとおり、図書館の建設には多額の費用を要することから、2023（令和 5）年度に策定した本市の最上位計画である「水戸市第 7 次総合計画－みと魁・NEXT プラン－」に、（仮称）南部図書館の整備検討を位置付け、検討を進めることといたしました。 新しい図書館の機能や規模、立地等については、有識者会議を設置するなど、幅広い議論の中で、より利活用が図られる図書館の整備検討を進めてまいります。検討に当たっては、いただいた御意見も参考にさせていただきます。 また、（仮称）南部図書館の整備に当たっては、その必要性や目的、目指す姿を明らかにし、市民の皆様に周知を図り、御理解いただけるよう努めてまいります。 なお、市立図書館 6 館の所管区域は、37 ページ及び 38 ページに掲載した各図書館の施策の概要欄を御参照ください。

意見等の概要	市の考え方（対応）
う。しかし、必要な理由がきちんと示されていないこの状態において、新たな箱モノを建てることについての説明が足りず、全体的に慎重さが欠けている印象を受けた。 必要な理由があって新設するのであれば、市にとって住みやすさ、魅力につながる要素になりえるものであり、全体の文章の中にさりげなく溶け込ませるものではなく、大きく項目立てて説明してはいかがか。	
こどもの図書館利用を増やすためのイベントについて、以前見和図書館で開催されていた「読書犬」のイベントをまた開催してほしい。 近年、不登校児のためのアニマルセラピー等が行われており、セラピードッグは介護老人のためだけのものではなくなった。「読書犬」「読書介助犬」と呼ばれる犬たちと読書をすることで、こどもたちにどのような影響をもたらすのか、他の図書館で行われた際には、より読書を好きになったという意見も出ていた。 一度にたくさんの人数を募集することは難しいかもしれないが、各市内の図書館で開催してくれると面白いと思う。	見和図書館で動物の絵本の読み聞かせを行ってきたボランティアグループが、2021（令和3）年4月に、盲導犬を引退した犬を傍らに置いて読み聞かせを行い、県内の図書館で初めての試みとして話題になりました。 このボランティアグループは、現在も、見和図書館を中心に活動을続けており、代替わりしたセラピードッグを伴い、毎月1回おはなし会を開催しています。犬がこどもの音読の聞き手となる「読書介助犬」とは異なりますが、こどもたちと犬とのふれあいの時間を設けており、人気の高いおはなし会です。 いただいた御意見を参考に、この事業の拡充についても検討してまいります。

問合せ先 教育委員会中央図書館管理係
 担当 鈴木、市瀬
 電話 029-226-3951